

SSHとは？ 最先端の理数系教育を積極的に進める学校を国が認定して支援・推進するプロジェクトです。

学びを「科学」しよう！ (その1)

第1回 授業の理解度をアップさせるヒントとは？

本校は、SSHの研究指定を受けて最先端の科学を学んでいます。「科学」の持つ力を皆さんの日常の学習にも活用できるように、これから何回かに分けて一緒に考えてみたいと思います。一回目は、「授業での理解度をアップさせるヒント」についてです。

皆さんは、「自分なりに努力はしているのだけど、どうしても成績が伸びない」とか友人の中で「あの、テストになるとなぜか高得点を取るなあ」と思ったことはありませんか？授業の理解度をアップし、テストの得点につなげるためには、ちょっとしたコツやヒントがあります。

ニュース解説でおなじみの池上 彰さんが、興味深い話をしていました*。芸能人相手のあるテレビ番組で、以前取り上げたことを全部覚えている人がいる一方で、まったく記憶に残っていない人がいたそうです。何が違うのか。覚えている人は、番組収録後に仲間を集めて、池上さんから聞いた話を、さも自分の知識のように話していたということです。要は、「INPUT」だけではなく、自分から「OUTPUT」することで定着度や理解度が上がるということです。



左図は、学び方によって理解度が変化することを模式的に表したものです。今話題になっている「アクティブラーニング」も一部この考えを取り入れたものです。

授業をただ聞くよりも、理解したことを、自分の言葉でノートにまとめたり、友達と話し合ったりするOUTPUTの動作を取り入れるだけで、理解度が大きく上昇することが経験的に知られています。

皆さんは、授業中に自分が情報をINPUTしている時間とOUTPUTしている時間のバランスを意識したことがありますか？



理解度を上げて定着を図るためには、OUTPUT、すなわち「自分の考え」を出力している時間を多くすることがポイントです。

そうすることで頭の中へ「断片」で入ってきた情報がつながり、自分の言葉で語る事ができる「生きた知識」になるのです。(次回は「自分の考えをOUTPUTのためのノート」について考えてみます)